

第48回東海安全推進大会

— 『見て 聞いて 触って』
危険への『気づき&再確認』 —



情報通信エンジニアリング協会 東海支部

1. はじめに

情報通信エンジニアリング協会東海支部のSKY運動推進大会は、参加した方にすぐに現場で役立てていただけるよう、十数年余り前の第34回から「参加者全員の体感実施による現場力の向上」をテーマに実施してきました。

昨年度の大会からは、「参加者全員による体感実施」の基本コンセプトは継続しつつ、NTT西日本 東海事業本部様とITEA東海支部との共催で実施し、大会名称も「東海安全推進大会」と変更しました（表1）。

今大会の大会コンセプトは「『見て 聞いて 触って』危険への『気づき&再確認』」とし、NTT西日本東海カンパニー様の社員およびITEA東海支部会員会社の社員に多数参加していただき、有意義な安全推進大会を実施することができました。

以下に第48回東海安全推進大会の概要について紹介します。

2. 今大会の変更ポイント

今大会からは、なるべく多くの社員に危険を体感していただくことを目標に、大きく以下の2点の変更を行いました。まず1つ目は、会場を広く、かつ（公営であることから）

表1 第48回東海安全推進大会の概要

1. 日時	平成30年11月7日（水） 9:40~16:30
2. 場所	豊田スタジアム（愛知県豊田市）
3. 主催	西日本電信電話(株) 東海事業本部と （一社）情報通信エンジニアリング協会東海支部との共催
4. 参加者数	合計720名
5. スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9:40 開会式 ・ 9:55 ツアー体感コーナー等の紹介（プレゼンテーション） ・ 11:00 ツアー体感コーナー及びフリー体感コーナーでの体感 ・ 12:20 昼食、休憩等 ・ 13:00 ツアー体感コーナー及びフリー体感コーナーでの体感 ・ 16:20 閉会式 ・ 16:30 終了

比較的使用料が手ごろな「豊田スタジアム」に変更しました（写真1）。2つ目は、各コーナーの体感セットを、従来の1セットから2セットに変更しました。これらの変更により、同じ体感時間内に従来の2倍の参加者が体感することができるようになりました。

3. 開会式

全45,000名収容可能な、豊田スタジアムメインスタンドの一部を利用して、開会式を行いました（写真2）。

開会にあたり、西日本電信電話株式会社取締役 東海事業本部長の山本様から以下のご

挨拶をいただきました。「通信建設会社様には日頃からNTT関連の工事・保守の面で多大なる協力をいただきありがとうございます。

今年は非常に自然災害の多い年であったと思います。ここにお集まりの皆様にも東海エリアだけでなく、日本全国、支援という形で駆け回っていただき、通常の業務以外に相互支援ということで力を貸していただき、本当にありがとうございます。

東海エリアでの通建会社の事故は



写真1 豊田スタジアム

今年度はありませんが、全国的にみると残念ながら発生しています。原因は、基本動作が守られていなかったことによるものです。これをなくすためには、やるべきことを地道に繰り返し、再確認しながらやっていくことしかないと思います。本日の安全大会も、そういうきっかけになる大きな取組みだと思えます。お集まりの皆様には是非すべて体感いただいて、そのうえで本日のキーワードである「見て、聞いて、触って、そして気づき、再確認する」というところを実際に行っていただき、そして、職場に持って帰っていただき、本日参加できなかった方々にも、話をしていただければと思っています」(写真3)。

引き続き、情報通信エンジニアリング協会 東海支部の玉村支部長から以下のような挨拶がありました。「豊田スタジアムで安全推進大会を開催できたことは非常に喜ばしいことだと思っています。従来、安全推進大会の参加者は400名程度でしたが、今回は約720名の参加者ということで、従来の会場よりも広い豊田スタジアムに変更していただきました。また、今大会は、従来にはなかった、メーカーさんにもご参加いただいて、いろいろな安全の装備、作業の効率化、品質向上のための物品の展示も行っています。是非、体感に含めて見学いただければと思います。東海安全大会の特徴は「多くの参加者が体感できる」ことであります。今日実際に体感していただいて、皆さんが、安全について再度考えていただく機会になれば、と思います。

最後になりますが、通信建設会社は、今後も引き続き、工事だけでなく保守についてもNTT様と一緒にやらせていただく「ベストパートナー」として、一心同体で活動させ



写真2 開会式



写真3 山本本部長ご挨拶



写真4 玉村支部長挨拶

ていただければと思っています。よろしくをお願いします」(写真4)。

4. 実施前における体感各コーナーの紹介プレゼンテーション

開会式の後、NTT西日本東海事業本部の小林設備部長様から「SAFETY FIRST」の意義と西日本エリアにおける人身事故の状況等を交え、ご挨拶をいただきました。

引き続き、豊田スタジアムスタンドにて各体感コーナーを実際に企画した担当者が、過去の事故事例、対策、体感内容、体感時の注意等の説明を行いました。実際に体感する前に、予備知識を得ておくことで体



写真5 体感コーナープレゼン模様



写真6 危険体感の様子

感内容の理解を深めることができ、より効果的な体感を可能にしています。

今大会は、特に、豊田スタジアムの大画面LEDスクリーンを活用しプレゼンテーションを行ったことから、参加者全員に見やすく、理解しやすかった、と好評でした(写真5)。

5. 危険体感

今大会における危険体感の参加者は約400名で、前大会の240名の約1.7倍になりました(写真6)。参加者は、NTTフィールドテクノ様を中心としたNTT東海カンパニー各社様およびITEA会員各社の現場作業者と現場における安全指導者層ですが、各社の新入社員の皆様にも積極的に参加していただきました。

体感の実施方法には、前大会と同様、「ツアー体感」と「フリー体感」

表2 「ツアー体感」コーナー一覧

- ① 脚立作業時における落下等事故体感
- ② バックホウの死角事故及び近接警報体感
- ③ 屋根上作業における滑り事故等体感
- ④ 電柱からの落下事故体感とセンサーによる遠隔落下監視
- ⑤ シャフトドライブウィンチ巻き込まれ事故体感
- ⑥ バケット車の逃走事故体感
- ⑦ 社内設備作業時における短絡事故体感
- ⑧ ドリル作業時における指巻き込まれ事故体感

表3 「フリー体感」コーナー一覧

- ① 引込線の道路横断作業時における車両引っかけ事故実演
- ② ドローンを活用した設備点検実演
- 展示コーナー（敬称略）
- マルノ機販、泉州電業、東名通信工業、高千穂産業、タカコム、大東電材、テレック吉安、日本通信電材、イワブチ、カヤ産業、大谷工業、住友電気工業、住電オプコム SEI オプティフロンティア、古河電気工業、成和技研、正電社、フジクラ、スズキ技研 ジャパンリーコム、フジクラ・ダイヤケーブル、日本コンクリート工業、アイチ コーポレーション、タダノ
- NTT-FT本社、NTT-FT東海、NTT-REC、技術協力センター
- NDS、シーキューブ、日本コムシス、協和エクシオ、ミライト

を設定しました。

「ツアー体感」は、あらかじめ個々の参加者は24の特定の班（A1班、A2班・・・A8班、B1班、B2班・・・B8班、C1班、C2班・・・C8班）に所属してもらい、各班ごとに決められた時刻に8つの体感コーナーをツアー形式で巡回し体感する体感です。今大会の体感参加者は約400名だったことから、各班が17名程度となり、20分の時間内で1つのコーナーを各班が体感していただきました。

また、「フリー体感」は、ある決

められた時間内で、「実演コーナー」および「各メーカー様等による展示」の中から、参加者個人の好きなコーナーを自由に巡ってもらう体感です。

各体感コーナーとも、NTT西日本東海カンパニー様とITEA会員各社の専門メンバーが議論を重ね、体感セットを準備し、当日の運営も行いました。

「ツアー体感」コーナーは、管内や全国で最近発生した重大人身事故を考慮して8コーナーを選定しました（表2）。その中で新規体感①

脚立作業時における落下等事故体感、②バックホウの死角事故および近接警報体感、④電柱からの落下事故体感とセンサーによる遠隔落下監視、および⑧ドリル作業時における指巻き込まれ事故体感の4コーナーです。

「フリー体感」コーナーでは、体感参加者が危険度を大きく体感できないコーナーやドローンを用いた設備点検実演等のデモ等を実施しました（表3）。

以上の危険体感の様子を表4にまとめました。

表4 体感コーナー実施模様

ツアー体感コーナー	①脚立作業時における落下等事故体感		<ul style="list-style-type: none"> ○脚立作業での作業8禁をもとに以下を体感 <ul style="list-style-type: none"> ・脚立作業時に脚立がすべる ・脚立作業時に脚立が傾く
	②バックホウの死角事故及び近接警報体感		<ul style="list-style-type: none"> ○バックホウの運転席に乗り込み死角を体感 ○死角にいる作業員が近づくと近接警報が鳴ることを体感
	③屋根上作業における滑り事故等体感		<ul style="list-style-type: none"> ○濡れた瓦屋根で滑り具合を体感 ○スレート屋根で歩み板を使用した作業体感

④電柱からの落下事故体感とセンサーによる遠隔落下監視



- 安全带（胴綱）のみの支持の状態から、胴綱を切断し、落下を体感
- バイタルセンシングユニットを用い情報がセンタパソコンに表示されることを確認

⑤シャフトドライブウィンチ巻き込まれ事故体感



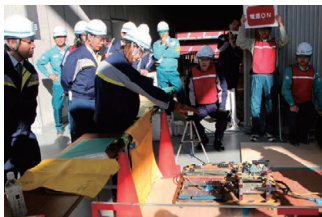
- シャフトドライブウィンチの正しい設置方法の確認
- 疑似腕を使用し、巻き込まれた場合どうなるかを体感
- シャフトドライブウィンチの牽引力の体感（綱引き）

⑥バケット車の逸走事故体感



- バケット車のサイドブレーキの仕組みを理解
- バケット車が坂道で動き出した場合、人力では止められないことを体感（綱引き）

⑦社内設備作業時における短絡事故体感



- 絶縁工具等による安全確保方法体感
- 絶縁破壊体感
- アルミホイール落下によるスパーク体感

⑧ドリル作業時における指巻き込まれ事故体感



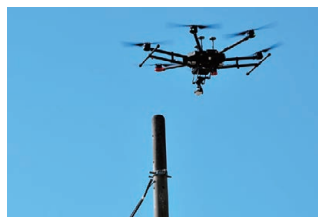
- 回転している工具（ドリル）の刃にハンドマネキンにかぶせた軍手を巻き込ませ引っ張られる力を体感

⑨A引込線の道路横断作業時における車両引っ掛け事故実演



- 以下の事故の再現を行うことで、事故の悲惨さを体感
 - ・道路横断の光ドロップケーブルを新設する際に、脚立を使用して昇柱する途中、走行してきた車両をガードマンが制止しきれず、光ドロップケーブルとともに作業員を跳ね飛ばした。

⑨Bドローンを活用した設備点検実演



- ミライト・テクノロジーズ社のドローン事業にNDS社等も参加し、事業の拡大を図りつつあり、そのサンプルとして、「腐食つり線の空撮による設備点検」を実施し、テント内モニタでその腐食度合いを調査する。

ツアー体感コーナー

フリー体感コーナー

6. 終わりに

今大会は1日を通してやや暑いほどの好天にめぐまれ、気持ちよく全員が危険体感等を実施することができました。

閉会式では、ITEA 東海支部 橋本副支部長から閉会の挨拶を受けた後、小栗安全連絡会主査のリードで参加者全員による指差呼称演練を実施し、安全推進大会を終了しました（写真7）。

スタッフ全員の努力の甲斐あって、アンケートの結果もほぼ参加者全員の方が「満足」と回答しており、大変な好評を得ることができました。

各体感コーナーの人気は、理解しやすいもの、迫力のあるものが上位にあり（表5）、体感を通じた安全・危機意識の醸成、効率化の推進に効果を発揮してくれるものと期待しています。

最後に今大会の準備・運営にご協力賜りました関係各位の皆様感謝申し上げます。



写真7 閉会式 指差呼称

表5 好評だった体感コーナー（アンケート結果より）

好評順位	ツア－体感
1	脚立作業時における落下等事故体感
2	電柱からの落下事故体感とセンサーによる遠隔落下監視
3	引込線の道路横断作業時における車両引っ掛け事故実演
3	ドローンを活用した設備点検実演
5	バケット車の逸走事故体感
6	ドリル作業時における指巻き込まれ事故体感